



OKAYA

岡谷ロータリークラブ

- 会長／小野 仁
- 副会長／宮坂宥澄・佐藤有司
- 幹事／山岸邦太郎
- 会報・雑誌・広報委員長／林 尚孝

- 事務所／岡谷市中央町 1-4-12 ホテル岡谷 3F
Tel/0266-22-6939・Fax/0266-23-6939・URL:<http://okayarc.org>・E-mail:okayarc@amber.plala.or.jp
- 例会／毎週火曜日 PM12:30 ホテル岡谷

第 2546 回例会 2011 年（平成 23 年）11 月 15 日（火）

点 鐘：小野 仁 司 会：高木昭好
斉 唱：それこそロータリー ラッキーNo.：No.7 北村正春

会長挨拶

先日の市民新聞で、2015 年開院予定の岡谷市民病院の記事が載っていました。医院での一次医療、岡谷病院での二次医療そして諏訪日赤での三次医療とうまく分担されることによって、患者の分散化が図られ、混雑解消また効率のよい医療体制ができると期待しています。

会長報告

- ・ガバナー事務所より 2013-14 年度のガバナー・ノミネー決定の案内が届きました。宮坂宥洪会員に決定しました。皆様のご協力が無ければ出来ませんので、よろしくお願ひします。

挨拶 宮坂宥洪ガバナー・ノミネー

岡谷 RC 創立 52 年目にしてガバナーを出す事は大変に名誉な事でありませうけれども、それが私とは思っていませんでした。僭越な気持ちであります。皆様のご協力をいただかなければ出来ない仕事だと思ひます。今後とも宜しくお願ひします。

幹事報告

- ・昨日、諏訪グループの会長・幹事会が行われましたのでご報告します。
 - ▶次年度ガバナー補佐＝諏訪 RC 山崎晃氏に決定しました。
 - ▶IM=3/4(日)マリオローヤル会館 13:00 点鐘。テーマ「家族の絆」で開催されます。今から予定しておいて下さい。
 - ▶諏訪グループ会員名簿作成＝今年度中に見積もりをする。次年度で各クラブにて予算計上し、製作という方向です。

委員会報告

国際奉仕委員会 埔里 RC 訪問へは是非とも多くの方にご参加頂きますようお願いいたします。まだ、訪問した事のない若い会員の皆様にもご参加頂ければと思います。よろしくお願ひします。

会員増強・家族委員会 ご案内しておりますが、次週の「ファイヤー・サイト・ミーティング」を開催します。3つのグループに分けてテーマに沿って話しをして頂きます。よろしくお願ひします。

役員および理事指名委員会 本日、正午より 11/22(火)正午まで、2013-14 年度会長に立候補及び推薦を受け付けますので、委員長又は事務局まで申し出て下さい。この年度は宮坂ガバナ一年度になります。また、役員および理事指名委員会の方は 22 日例会終了に委員会を開催します。よろしくお願ひします。

卓話「童画家 武井武雄誕生」

一何故、武井武雄は童画家となったか

イルフ童画館

館長 山岸 吉郎様



本日はお招きいただき、ありがとうございます。

イルフ童画館は武井武雄先生(1894~1983)の美術館でございます。今日は私がイルフ童画館にお世話になってからの1年半に武井武雄について考えた事をお話しさせていただきたいと思ひます。

東京美術学校(現東京芸大)は卒業する時に西洋画科は自画像を提出するのが習わしになっております。錚々たる方々も卒業する時に自画像を描いています。武井も卒業した1919年に自画像を描いています。実はそれが現在残っている武井の唯一の油彩画という事になっています。

私がイルフ童画館の館長になった時に非常に不思議に思ったのはトータルで6年間も油絵の勉強をしたのに武井は美校を卒業して比較的すぐに童画家になり油絵を捨ててしまったということです。子供のために子供が感動する本当の絵を創ろうと考えたのが理由ですが、本当にそれだけなのかと、いろいろその辺で考えてみました。

諏訪中学時代に描いた自画像は水彩で描かれていますが、油絵のような手法で書いてあります。武井は多分この時代は美術学校に行きつちりと油絵を描こうという思いで描いたんだと思ひます。この自画像は希望に満ちた顔をしています。自画像は全てを語ると言われますが、美校を卒業するころの顔は苦渋に満ちた顔をしています。

本日は 19 歳で本郷洋画研究所入学した時から 33 歳で日本童画協会を同士 6 人(初山滋、岡本帰一、清水良雄、深沢省三、川上四郎、村山知義)と設立するまでの武井武雄の青春の彷徨について、私なりに考えてみた事をお話ししようと思ひます。

私たちは主に、武井のお嬢さんの三春さんがお書きになった「父の絵具箱」という本で武井の生涯を勉強させて頂くのですが、この本を読む限り、武井という人は余り挫折も無く生きてこられたような感じがします。そこで青春のこの時期に誰もが抱く、悩みや挫折が武井にもあったんじゃないかと私は勝手に思い込んでいます。それは武井がなぜ油絵を捨ててしまったのかという事と関連するのではないかと。

殆ど資料がないのですが、美校時代を振り返ってみましょう。美術学校時代に習った先生方は、明治・大正期の日本画壇の西洋画家を代表する絵描き達です。黒田清輝（1866～1924）、岡田三郎助（1869～1939）、藤島武二（1867～1943）。岡田三郎助には本郷の洋画研究所時代から習っています。2 か月ほど前に横浜で藤島武二と岡田三郎助美術展がありました。私はそれを見た時に彼らに学んだのに、武井には、その影響が全くと言って良いほど見られない。どうしてこういった作風を捨ててしまったのだろうか、またどうして童画の道に行ったのだろうか、子供の絵が好きだったのが第一だとは思いますがこの辺に疑問を持ちました。

前田寛治、里見勝蔵、岡鹿之助、佐伯祐三らは武井が美術学校時代に接点があった可能性のある美校生で、殆どが、後に巨匠と言われる人たちです。何故彼らとは同じ道を進まなかったのでしょうか。

武井が童画家という道を選んだ理由は私なりに考えました。武井武雄という人は、自己を冷静に捉える資質がある、自分の才能がどこにあるのか見極める能力が高かったのではないかと、油絵よりもデザインやイラストレーションに憧れが強かった。それと時代の風潮。少し早く生まれ過ぎたようなところがある。そして芸術家にしては強い社会性、あるいはしっかりした経済観念があった。また、芸術家にありがちな強い幻想癖、そして物語を紡ぎ出す能力に長けていた。

美校時代の友人達で私が注目したのは里見勝蔵（1895～1982）です。里見は後に日本にフォービズムをもたらした画家として有名になるのですが、武井とは美校の同級生です。月並みな推測かも知れませんが、武井も美校時代は油絵をやろうと思っており、里見に対してライバル心があったと私は思っています。里見は美校在学中に早々と二科展、院展で初入選を果たしています。油絵で成功するには二科展や院展などに入選しないと難しい時代でした。また、里見は卒業の2年後にフランスへ留学をしています。当時、黒田、岡田、藤島もパリで美術を学んでいます。当時の日本の風潮としてはパリに行き、パリで絵を学ぶ事が画家になる為の一つのキャリアであった時代です。武井は、記録も資料もないのですが私の様な人間が想像するに、羨ましいというか、負けてなるものかという思いが里見に対してあったのだと思います。前に行く里見に対して、異なる領域で勝負しようと思ったのかも知れません。

里見がパリで活動していた頃に武井はどういう絵を描いていたかという、線が描く美しさに魅せられていたのだらうと思っています。1922年に自らが売り込んで「コドモノクニ」の創刊号の表紙を描いています。これは傑作です。「コドモノクニ」のロゴも武井の創作です。また、裏表紙の絵が武井らしい絵と言えます。線を細かく描く、幾何学的な表現が武井の特徴であると思います。これは後に日本童画協会を一緒に起こした一人でもある村山知義（1901～1977）の影響も受けたのではないかと私は思っています。

武井に童画家になる契機を与えた、画家に竹久夢二（1884～1934）がいます。夢二は武井と同じような領域で活躍した先人です。この人は日本の画壇には全く関係なく絵を描いていた人で、商業的なイラストレーションやグラフィックデザインの先駆者でした。「宵待草」などの作品が有名ですが、詩人でもありました。武井は子供のころ北原白秋に馴染み、若い時には詩も書いているので、親しみと先駆者としての憧れの存在として、当時の武井の心の支えだったのかもしれませんが。そして、油絵を捨てて子供のためのイラストレーションを描こうという思いに至ったのだらうと思っています。

1925年（大正14年）5月東京銀座資生堂画廊にて、「武井武雄童画展」を開催し、このとき初めて「童画」という言葉を用います。

1927年日本童画家協会を設立します。この中で一番関係したのは生涯のライバルであった初山滋（1897～1973）と先程も触れました村山知義の2人が武井にとって鎬を削り、

影響し合った同志ではないかと思えます。初山も武井以上に繊細な線を描く画家と言われます。当時の画風は似ているところがあります。共に少なからずビアズリー(1872-1898)の影響を受けたのではないかと思えます。当時はイラストレーションとか線で描く絵がアカデミックな意味では評価されなかった時代ですが、武井はこの道こそ自分の進む道だと思ったのではないかと思えます。村山知義はドイツ留学時に当時の最先端の手法を学んでおり、子供のための絵にも非常に表現主義的な、或いはシュルレアリスムに近いのではないかというような絵を描いています。

武井は現代で言う、デザインやイラストに非常に興味があり、またその領域に自分の能力が発揮出来ると思っていたのでしょう。また、一枚の絵で表現することよりも、物語を紡ぎながら数枚の絵で表現することを好んでいたのではないかと、それが、絵本作家になり、最終的には刊本作品の細かい絵とユニークな物語と繋がって行きます。

私が思うのは、この時期、武井は童画という手段を通して自らの芸術を表現しようと思っていたに違い有りません。当時の日本画壇では到底評価されない前衛芸術を武井は表現しようと思ったのではないか、そのために良い意味で童画という手段を使ったのではないかと思えます。

線とか幾何学模様はワシリー・カンデンスキー(1866~1944)やパウル・クレー(1879~1940)と共通するものがあります。

日本で、カンデンスキーやクレーがもっと前に紹介されていれば武井の評価も変わっていたかも知れません。武井の作品を見る限りかなり時代を先取りしていたような感じがします。本日はありがとうございました。

同行：
イルフ童画館
係長 小平 寛様



ニコニコボックス

井上保子・小口成人・小口雅弘・小野 仁・笠原新太郎・北澤洋之介・北村正春・小松正二・佐藤有司・高木昭好・武井利夫・竹村一幸・中嶋孝一・瀨 透・瀨 俊弘・林 尚孝・林 靖高・原 史郎・藤森睦美・宮坂 伸・宮坂宥洪・宮坂宥澄・宮澤由己・矢島 進・矢島 實・山岸邦太郎・山崎典夫 イルフ童画館山岸吉郎様ようこそおいで下さいました。卓話楽しみにしています。

大橋正明・小口泰史・尾関秀雄・笠原祥一・杉田隆夫・瀨 透・林 裕彦・平沢清文・山岡晴男 本日ザック JAPAN ワールドカップサッカーの北朝鮮戦が夕方よりあります。アウェーの試合です。みんなで応援しましょう。

出席報告

会員数 47 名、出席者 37 名、出席率 82.22%、前々回訂正 82.61%

2011-2012 年度 R I テーマ
こころの中を見つめよう
博愛を広げるために
Reach Within to Embrace Humanity

